

第4号 ちょびてご

学生支援センター 障がい学生支援室 発行

地上120cmの位置から、街を見てみよう。



120cmの視界

見え方が変わる！？120cmの視界といえば、ちょうど7歳の平均身長。草花に近く、もっと自然に近かったとき。第4号・第5号では、「120cmの視界」と題し、車いすのことについて紹介します。

そう、160cmの人が車いすを利用するとき、それが「120cmの視界」。

車いすを知ろう！

○車いすの3つの機能

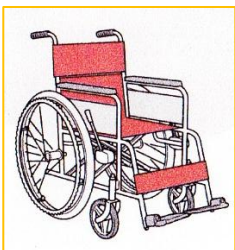
車いすは、その名の通り、椅子に車輪が付いた構造になっています。車いすには、快適に座り続けることができる「椅子としての機能」、操作しやすい「移動するための機能」、そして無理なく安全に「乗り移るための機能」が求められます。

椅子としての機能

移動するための機能

乗り移るための機能

○車いすの種類



1. 自操型車いすと介助型車いす

車いすは後輪の大きさによって、使用者自身が操作する自操型車いすと介助者が押す介助型車いすに分かれます。自操型車いすは後輪が大きくハンドリムが付いています。一方、介助型車いすは後輪が小さく軽量で、折りたたんだときのコンパクトさが特徴です。



2. 姿勢を変えることができる車いす

チルト機構：座面と背もたれの角度を変えずに姿勢を変えることができます。身体がずれにくく、姿勢を保持しやすい。
リクライニング機構：背もたれの角度を変えることができます。

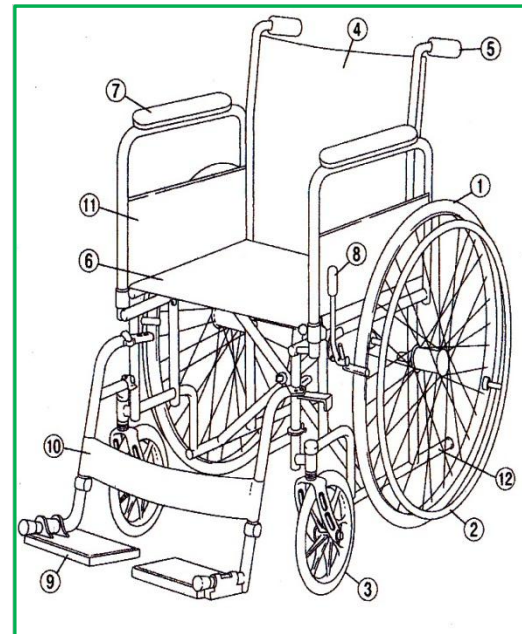


3. 電動車いす

わずかな力で操作できる電動車いすは、長い距離を移動するのに便利な福祉用具です。車いすの最高速度は、JIS規格で6.0km/h以下となっています。電動車いすは、道路交通法上では、「歩行者」と扱われ、免許は不要です。

※この他、スポーツ型、デスク型、トラベラー型等目的に応じた車いすがあります。

○車いす各部の名前



①大車輪（後輪）

②ハンドリム：駆動輪回す

③キャスター（前輪）：自在輪

④バックサポート：背面シート

⑤グリップ：握り

⑥シート：座面

⑦アームサポート：肘掛け

⑧ブレーキ：駐車のためのブレーキ

⑨フットサポート：足置き台

⑩レッグサポート：足が後ろに落ちないようにするベルト

⑪スカートガード：衣類等を巻き込まないようにする板

⑫ティッピングレバー：前輪昇降バー

※2006年JIS規格では、車いす構造の各部の名称を改正しました。

車いすチェックポイント！

1. ブレーキ

ブレーキのかかり具合は？からすべりしないか要チェック！

2. グリップ

グリップが抜けないか？急な坂道でグリップが抜けたら大変！

3. タイヤ

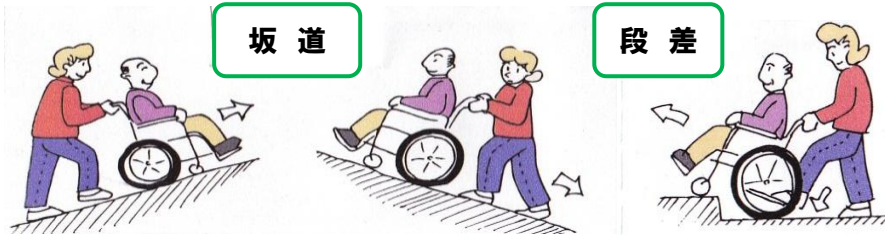
タイヤの空気が抜けていないか？空気が入りすぎていてもダメ！

※この他、取り外し式の部分（バックシート、アームサポート、フットサポート等）が、がたつかず、しっかりととまっていることを確認しましょう。

平坦な所でカラの車いすを前方に突き放してみます。曲進や異常音、振動などがあれば、キャスター、大車輪の不良、またはネジのゆるみがあると思われます。

車いすの操作

○車いすの操作は、安全第一！「ゆっくり確実に」が基本です。



【上り坂】

押す人は体を少し前に倒し、押しもどされないように、一歩ずつ押します。

【下り坂】

急な坂はブレーキを軽く使いながら、後ろ向きで一歩ずつ下ります。

【段差を上るとき】

ティッピングレバーを踏んで前輪を上げ、続いて後輪を押し上げます。

【段差を降りるとき】

後ろ向きで後輪をおろし、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げたまま後進します。



百聞は一見にしかず
百見は一考にしかず
百考は一行にしかず
バリアフリー体験講座参加を！



ひ

と

や

す

み



車いすの疑似体験の機会は、今多くある。車いすに乗って会場の中を直進、段差のクリア、コツをつかめば簡単…と思いきや、実際に車いすで一歩街にでたならどうであろう。

まず120cmの視界。高い位置にあるものは見えないし、取れない。人はみんな上から目線。舗装された歩道といえど、微妙。まっすぐではない。緩やかに湾曲している。左右のハンドリムを同じように駆動すればいいとは限らない。電信柱は突然現れるし、お店の看板も支障になる。後ろからの車は怖いし、追い越される自転車には仰天。車いすで街にでることがどんなに大変か。少しでも車いす利用者のバリアを知ろうとする心、無関心でないことが大切。

車や自転車の迷惑駐車はしない、道路にゴミを捨てない、そんな当たり前のことができていない人がいる街は、車いす利用者にとってはバリアの街。岡大キャンパスはどうだろう。

高齢者施設でも車いす利用者の方は多い。車いすを駆動することは、高齢者にとってはかなりの能力である。高齢者施設であるから、バリアはほとんどない。高齢の女性は私に言った。「居室から食堂までの廊下には緩やかな坂があるんですよ」と。駆動する彼女の手に、しわのゆがみに気づくスタッフはいただろうか。気づかぬ坂はあるかもしれないけれど、人に向き合い寄り添うとき、心の段差は、自らいつもメンテナンスすることを忘れてたくないなあ。（本多）

報告



バリアフリー体験講座 点字教室 初級編

6月29日「点訳の会キツツキ」板谷美幸さんを講師に開催しました。楽しく点字の「いろは」を学習しました。参加者9名でした。



第2回 ノートテイカーの集い

7月6日第2回ノートテイカーの集いを開催。※聴覚障がい者の「耳マーク」（左図）をご存知ですか。昭和50年に制定されました。



バリアフリー体験講座 ユニバーサルデザイン

7月7日大学会館でバリアフリー体験講座を開催。「体験してみて、初めて気づくことって多いですね」等参加者の声。25名が参加。

学生支援センター 障がい学生支援室

086-251-8553/8563